



リーディングDX 研修会だより②

佐渡市教育委員会
指導主事発行
令和6年10月7日(月)

『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な 充実に向けた授業改善・一人一台端末の活用事例

今号では、リーディングDX研修会のⅡ部の講演会の様子をお伝えします。講師の上越教育大学大学院教授の清水雅之様から、標記の題でご講演いただきました。講演の概要は以下の通りです。

(1) 始めに

○ICTは単なる道具、その道具を活用してどう学ばせるかが一番重要

○日本のICTの教育利用は遅れている

→例 シンガポールは7年前～8年前の時点で、一人一台端末の活用が行われていた。

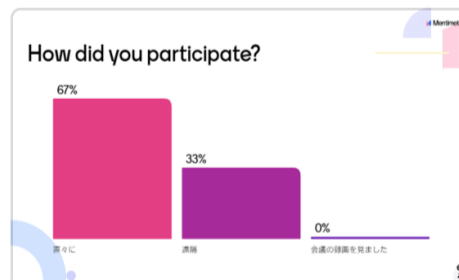
→日本では相変わらず先生だけがICTを使っていないだろうか。子どもにも使わせているか。

(2) 汎用ソフトの紹介

①「Mentimeter」の紹介

→「Mentimeter」とは？

オンラインでプレゼンテーションを作成でき、プレゼンの発表時には聞き手のアンケート結果や反応などを即時可視化でき、話し手と聞き手相互にコミュニケーションを取ることができるプレゼンテーションソフト(無料プランあり)。可視化の方法は表、グラフ、コメント、テキストマイニング形式と様々な方法を選択できる。



②「ふきだしくん」の紹介

→「ふきだしくん」とは？

児童生徒が書き込むことのできるオンラインホワイトボード

※今年中に使用終了となるJamBoardの代替になりうるツールの一つ

※クラウドに保存ができないのが難点。写真保存する必要。



③Microsoft Office（パワポ・エクセル・ワード）と Teams を掛け合わせた授業展開例紹介

→Microsoft Office のソフトを Teams の「投稿」「課題」「ファイル」で共有することで、聞き手がアウトプットをし続け、全員参加型の個別学習・協働の学習の機会を設定することができる。

ソフト名	活用事例
パワーポイント	グループで協力しながら発表資料・作品等を作成する（共同編集・制作）。
エクセル	意見・考え・実験結果などを Excel の表に集約することで、他者参照が容易にできる。授業者も児童生徒の意見を瞬時に把握することができる。
ワード	共同で文章・作品を作成する。 例）俳句を作成する際、上の句・下の句を役割分担して作成する など

（３）情報活用能力の育成

○学習の基盤となる情報活用能力の育成が重要！

各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

（小学校 学習指導要領 総則）

→言語能力は国語を中心とした教科で、問題発見・解決能力等は総合学習等で重点的に行われている。しかし、情報活用能力の育成については軽視されている部分もあるのではないかな。

「情報活用能力」は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。」

○具体的には？

→学習活動において、コンピュータ等の情報手段を適切に用いて以下のことができる。

- ・ 情報を得る
- ・ 情報を整理・比較する
- ・ 得られた情報を分かりやすく発信・伝達する
- ・ 保存・共有する
- ・ 情報手段の基本的な操作スキル
- ・ プログラミング的思考
- ・ 情報モラル等に関する資質・能力等

（「教育の情報化に関する手引」）

→新潟県から体系表が出ている。情報活用能力の育成の指標や指導の見直しの参考に。

（県 HP：<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/399462.pdf>）

→情報活用能力の育成は、体育と似ている。足が速くなるためには、「足が速くなるための情報」を見ただけは速くならない。実際に走る練習をする必要がある。情報活用能力を育成するためには、児童生徒が実際に自ら情報や情報技術を活用する豊富な体験が必要！

→一方で鉛筆で「書く」練習も重要！

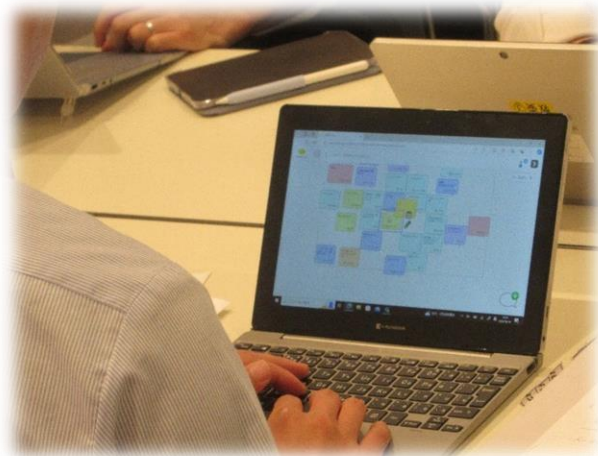
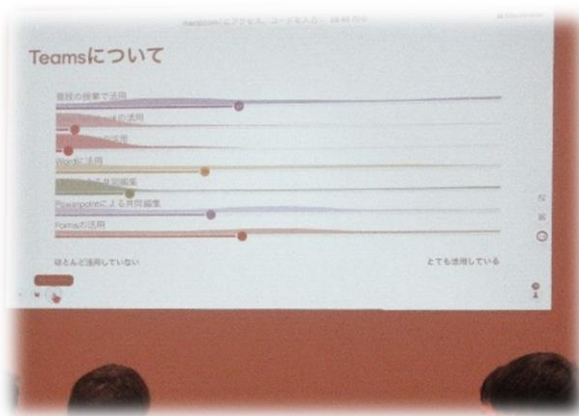
（４）個別最適な学びと協働的な学び

○個別最適な学び

- ・ AI ドリル → 児童生徒にやらせっぱなしではなく、その後どのように指導に生かすか？
- ・ 目的・場面に応じて、児童生徒が利用するツールを選択させていく。
→ 多様な選択肢の中から自分で判断して使うことができるように、様々なツールに触れさせおく。

○協働的な学び

- ・ ICT を活用して、共同で編集・制作、意見の共有・練り上げ
- ・ ICT で瞬時に他者の意見を参照できることで、「見る・見られる」が日常になる。
→ それによって、「比較する」「分類する」などの思考が促される。
- ・ 「まねる・まねられる」の関係の構築へ。
→ 他の人の意見・作品を大切にすることを通して、著作権の配慮の入り口につながる。



学習指導要領では、情報活用能力が言語能力や問題解決能力と並んで学習の基盤となる重要な資質・能力の一つとして挙げられています。その理由として、「教育の情報化に関する手引き」では、「将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくために重要である」からと述べられています。今後も情報活用能力の育成に向けた教育活動の実施をよろしくお願いいたします。